

令和7年度第3回宝塚市立図書館協議会会議録

- 1 開催日時 令和8年（2026年）3月19日（木）
13時57分から16時07分まで
- 2 開催場所 宝塚市立中央図書館研修室
- 3 出席委員 上野委員長（議長）、今北委員、政井委員、中西委員、林委員、藤井委員、真鍋委員
- 4 欠席委員 樋口委員、中本委員
- 5 事務局
 - (1) 中央図書館（中央）…藤野館長（司会）、近藤係長、藏野係長、小倉、西川
 - (2) 西図書館（西）………加藤館長、花村係長、大島係長
- 6 協議事項
 - (1) 令和7年度事業報告について
 - (2) 令和8年度事業計画について
 - (3) 意見交換等
 - (4) 次回の開催について
- 7 議事内容

司会	<p>お時間早いですけれども、欠席の人も御連絡いただいておりますので、始めさせていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、令和7年度第3回図書館協議会をこれから開催させていただきたいと思っております。本日は公私御多忙の時期にも関わらず、図書館協議会に御出席賜り、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>昨日の雨で、今日も雨だったらどうしようと思いましたが、良い天気になってよかったです。ありがとうございます。3回目、いつもそうですが、最後ということで、もう年度末になります。</p> <p>1回、2回と御出席いただいて、御協力いただいて、御意見いただきましてありがとうございます。今日は、いつも喋ってばかりというか、口からだけだったので、画像も入れてみようかなと思い、新たな試みをしております。</p> <p>見ていただいたり、聞いていただいて、確固とした御意見をいただければと思っております。よろしく願いいたします。事務局の方から、本日の協議会について、委員の出席状況の報告をさせていただきます。</p>
事務局（中央）	<p>本日の協議会につきましては、協議会規則第4条第2項に規定しております定足数につきましては、9名中7名、欠席2名、御出席いただいております。過半数を超えておりますので、協議会が成立していることを報告いたします。</p>
司会	<p>ありがとうございます。それでは早速ですけれども、議事に入らせていただきたいと思います。</p>

<p>議長</p>	<p>ここからは上野委員長、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日も議長を務めさせていただきますので、皆さんもどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですけど、スリム化といいますか、エコといいますか、すごく見やすくって、私なんかS席に座らせていただいて、ありがとうございます。早速ですけども、議事に入りたいと思います。</p> <p>議事の1、令和7年度事業報告をまず議題とします。では、事務局から御説明の方お願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>今年度の取組ということで御紹介して思うのですが、御参加いただいたイベントもあるとは思いますが、イベントばかりを図書館が行っているわけではなく、むしろそれ以外のことを普段から行っています。</p> <p>一人一人の人に対して、本と人と結びつけるような気持ちの、それこそが中心課題だと思って、僕らはやってるのです。</p> <p>そこに加えて、よく言うのですが、いろんな出会いというか、人、物、事とか、みんなみたいなものに出会っていただくような場所であると図書館を思ってもらって、気軽に来てもらって、来たらなんとなく新しい自分になったなようなことで帰ってもらえたら嬉しいとか、本を持って帰って読んだら嬉しいとか、あとは居場所としての図書館というのも本当にいつも思ってます、落ち込んでいるという時に来てもらえるような図書館だったらいいなと思ってやっていますという前置きで、そういうのが元にあって、いろんなイベントも後から紹介しますので見ていただければと思います。</p> <p>まず、その日々に数値化されたところで、こういうのがあるのですけど。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>御説明させていただきます。図書館の指標は、利用人数、貸出冊数、予約件数というのが大きくなります。</p> <p>あと、利用券の登録数とかもありますが、最終的には今年度3月までの数値が来年度の統計の報告になりますけれど、去年の4月から今年の2月までの速報値でいきます。</p> <p>利用人数は54万6,599人、前年度56万8,600何人ということで減っています。貸出冊数は約159万冊ですが、前年度168万冊、予約件数も約35万件から前年度は約37万件、この影響は、非常に利用が多い山本南分室が去年の10月から今年3月まで休館しておりますので、その分の減がかなり響いております。ただし、その分の減少を引きましても、実は減少傾向は続いております。</p> <p>今では何とも言えないのですが、おそらく1から2%減に全館としてはなるのではないかと思います。各館の動向としましては、中央図書館、中山台分室、移動図書館は、山本南分室が閉まっている利用者の方がそちらの方で利用するので、大体去年と横ばいか、もしくは</p>

	<p>微増です。</p> <p>ですから、山本南分室が閉まっていなかったら、各館の利用数が減っているのではないかなと思います。西図書館も実は減少が続いております。ただ、その利用の減少傾向っていうのはもう今全国的に言われておまして、あるニュースではもう1割減とか言われるニュースもございますので、宝塚市としては1から2%減に落ち着くかなというのは、まだ利用が多い傾向であるのではないかとは思いますが。</p> <p>最終的には来年度の協議会の方で御報告させていただきたいと思っております。全般的な利用状況について御説明いたしました。ありがとうございます。</p>
司会	<p>これからイベントとかそういうものの説明になりますが、後でいろいろ御意見をいただきたいかなと。</p> <p>たくさん紹介するので、何かここを聞いてみたいというのがあれば軽く聞いていただいても構いません。一切何も質問なしじゃなくてもいいです。すいません、はい。</p>
事務局（西）	<p>こちらは「深津さくらさんの怪談語り」の写真になります。普段図書館に馴染みのない方にも図書館に来ていただくということで、怪談ブームに乗って人気怪談師で作家の深津さくらさんをお招きしました。</p> <p>本にまつわるものをはじめ、様々な怪談を語っていただきました。定員90名でしたが、市内外から3倍以上の応募があり、そのうち約30%が図書館に来たことがないそうでした。イベント自体も御好評をいただきました。</p>
司会	<p>これは御参加いただいた方もいるとは思いますが、人気の方だったんです。</p>
事務局（中央）	<p>『細川貂々×青山ゆみこ』トークイベント」ということで、8月31日に開催、2023年、2024年にも実はトークイベントをしております、今年も行いまして、私も持っていますこの本「相談するって難しい」、新しい本が、お二人の共著の本がありまして、その出版お祝いイベントのような形とトークイベントになりました。</p> <p>事前申し込みで101名のお申し込みがありましたが、実際は当日参加者79名となっております。この内容のように、なかなか大人になって誰に相談するか、「相談するのって難しいよね」のような内容から、直前にいただいていた質問について、前でお二人が答えていくということで、最後に手を挙げて質問される方もいるけど、事前にいただいているものを答えていることの方が多かったと思います。</p> <p>最後、結構このお二人のファンの方もすごく多くて、本を買うとサインがもらえるということで、私もサインいただきましたが、丁寧に</p>

司会	も全員にサインを書いていただいて、お話も少しできるような、近い形のトークイベントになっていまして、大変好評なものでありました。はい、以上です。
事務局（中央）	細川貂々さんは宝塚大使ということで、宝塚に住まれている方です。
事務局（中央）	同じく「細川貂々生きるのへタ会」、こちらは毎月1回中央図書館で行ってまして、この回がもう全61回目で、11月から御本人の他のお仕事がすごく忙しくなられて、今休止中で行ってはおりませんが、こういうふうにはホワイトボードにお名前が、本名じゃなくて、今日何という名前で来ますか、「ヒロさん」とか「ノリさん」とかいうふうな形で匿名の名前で聞きまして、それぞれにいろんなことをまとめてくださって、ボードに。
司会	このボードが完成形で、「今日の会はこんなことしましたよね」というのを最後に「スマホで撮りたかったら撮って帰ってもいいよ」というような会になっております。
事務局（中央）	お互いに来た人同士が喋り合うような感じで、自分のちょっとした悩みを喋ってみるような会になっているのですが、すごく深刻な時もあったりするので、2番目か3番目に悩んでることってくださとか言ってみたり、左のニコちゃんマークというか、顔みたいなのは最初に和ますために名前を聞いて「今日の気分は何ですか」と聞いた時に「落ち込んでます」のような、悲しい絵を貂々さんが書いたりとか、そのような感じでやってるイベントです。
事務局（中央）	「レコードコンサート」のベガ・ホールで行う生演奏の分です。毎年開催しております。今年度は11月10日に開催いたしました。
事務局（中央）	来場者が233名、うち子ども3名が参加しております。今回はJ.S.バッハの曲アリア、バーバー作曲弦楽四重奏曲、メンデルスゾーン作曲弦楽四重奏曲第4番と弦楽ばかりですが、ピアノが入る時であれば管楽器が入ることもあります。
事務局（中央）	コンサートにはなかなか子ども連れで行きにくいというのがありますが、伊藤寿江先生がレコードコンサートは集会室で毎月やっていますが、こちらの方はCDを聴きながらみんなで鑑賞してコメントが入るといような、それも大変好評をいただいている会ではありますが、生演奏は年に1回このような形で行って、子どもさんが入ってもいいので、最初に子どもさんがもしうるさくしても、それは音楽と一緒に聴くということで、この会はそういう会なのでお願いしますといようなことってくださって、子ども連れの方も入れるような貴重な会になっていると思っております。
司会	大阪フィルハーモニーのバイオリニストの人が伊藤先生なんですけど、そのお仲間を呼んでくれて、こういう……
事務局（中央）	この「図書館寄席」ですが、今回初めて大人向けに江戸時代の上

<p>司会</p> <p>事務局（中央）</p>	<p>落語の歴史とかを講演された後に実演をするという会をしました。</p> <p>中川桂さんは東京の大学の教授をされているのですが、元々宝塚の御出身の方で、染左さん……</p> <p>林家染左さんという本職の落語家さんのお兄さんですね。御兄弟でずっと落語好きだった。</p>
<p>司会</p> <p>事務局（中央）</p>	<p>そうなんです。図書館のおはなし会でも落語を、今度もしますけども、していただくことも多くて、それが子ども向けとかにもされていたので、今回は大人の方が多い大人向けのものをされていました。最初に講演をされて。</p> <p>上方落語の歴史ということで、そうなんです。はい。</p>
<p>司会</p> <p>事務局（中央）</p>	<p>この図書館の「読書会」ですが、今は年に3回のペースで何年間もさせていただいてるものです。今年は「高瀬舟」と「赤毛のアン」と「怪談」をテーマにして、読書会を、最初にこの本を読んでくださいというような、テーマの本についてみんなで語り合うという会をしております。</p> <p>毎回その本が好きな人たちが集まるので、メンバーが変わったりもしますが、それぞれその本についての思いとか、いろんな他の本の読書体験とかも話されたりして、活発に話を結構されて、こういう読書会にして参加したかったんですという方が結構いらっしゃるなと思っております。</p>
<p>司会</p> <p>事務局（中央）</p>	<p>宮沢賢治の作品は旧何家やったっけ。</p> <p>旧山田家の宮沢賢治の作品はそうですね。</p>
<p>司会</p> <p>事務局（中央）</p>	<p>はい、大正時代の建物で行いました。</p> <p>宮沢賢治の作品なら何でもいいですっていうふうにさせてもらって、その時すごく参加人数が多くあったんです。</p> <p>それは宮沢賢治が好きっていうこともあるけど、旧山田家になかなか入る機会がないので、こういう時に1回来たかったという方がいらっしゃったので、建物を違うところであるというのも、そういうふうに読書会の応募が増える要因になるんだなと思って、今後もまた行っていきたいなと思いました。</p>
<p>事務局（西）</p>	<p>こちらは「リサイクル図書配布会」の写真になります。図書館で使わなくなった本を西公民館まつりの際に配布しました。一般書、児童書ともに2, 500冊程度配布しました。</p> <p>子どもの読書関連団体は上限50冊まで持ち帰り可能で、育成会や児童館、小学校など約計4団体が合計143冊持ち帰られました。</p>
<p>司会</p>	<p>中央図書館でもリサイクル図書の配布はしており、本棚に直接置いて、いつでも持って帰るといった形なんです。非常に持って帰る人が多くて、なかなか本棚に並ばない状態ではあります。</p>
<p>事務局（西）</p>	<p>こちらは「絵本で楽しむ手話の世界」の写真になります。障碍福祉課と連携して、西図書館で3カ月に1度開催している手話でのお話</p>

事務局（中央）	<p>し会です。</p> <p>大きい絵本を傍らに手話のみで読み聞かせを行います。会を通じてずっと無音の状態で行うのですが、手話初心者の私でも表現力豊かな手話を見ているとなんとなく分かってきて楽しいです。</p> <p>読み聞かせの後、絵本に出てきた単語の手話を参加者も一緒に実践するコーナーもあります。</p> <p>中央図書館はタイトルが違って、「手話で楽しむ絵本の世界」を毎月第4月曜日に行っております。</p> <p>こちらの方はコロナの影響もあり、プロジェクターで画面を映して、遠くから見て、前で手話をするというような、違う形のやり方をしています。</p>
司会	<p>プロジェクターで映しているのは人数がすごく多いんです。40人から50人毎回来られるので、その絵本が見れないので、著作権も許可を取って行っています。</p> <p>ちなみにこの映ってるお二人は聾者の方で、西図書館は聾者の方2人で行っておられて、聾者の方と健者の聴者の方との交流も生まれたりするような場所になっています。</p>
事務局（西）	<p>こちらは「おはなし会」の写真です。毎週土曜日に中央図書館と西図書館で行っています。ボランティアグループの「ひばの木」と「おはなしぞうさん」に御協力いただき、小さいお子さん向けと小学生の大きいお子さん向けで、絵本の読み聞かせと素話を30分程度の枠で行います。現在は閉室中ですが山本南分室でも月に1度実施しています。</p> <p>こちらが西図書館で実施している「2歳からのみんなであそぼ」の写真です。2歳くらいのお子さんを対象に、手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居などを楽しむ定例行事で、月に1回西図書館で開催しています。</p> <p>最後に簡単な工作も行っています。中央図書館でも同様の内容で対象年齢を少し下げたものを行っています。対象年齢は一応決めているんですけども、それよりも大きい子や小さい子が来た場合も皆さんで楽しんでいただけるようにしています。</p>
司会	<p>この写真はどちらかというと大きめの子が来た時のものが写っているのかな。</p>
事務局（中央）	<p>西図書館だけなので中央図書館の写真がないです。中央図書館は赤ちゃんみたいな感じの子も来ています。10カ月とか1歳の子も来ています。</p>
司会	<p>後で出てきますけど、ブックスタートで絵本を手渡して、その次につながるものという意味もあって行っております。</p>
事務局（西）	<p>こちらは「みんなであそぼ！ぷち」になります。1歳のお子さんとその保護者を対象にメンバーを募集し、計5回にわたって手遊びや</p>

<p>司会 事務局（西）</p>	<p>絵本などで遊ぶ行事です。</p> <p>決まったメンバーで集まるので、同年齢のお友達との初めての触れ合いや、保護者同士のつながりづくりの場にも活用していただければと考えています。</p> <p>保育的な意味合いがある。</p> <p>そうですね、はい。こちらは「図書館利用のための託児サービス」の写真になります。保護者が図書館をゆっくり利用できるよう、1歳から就学前のお子さんを1時間お預かりするサービスです。</p>
<p>司会 事務局（西）</p>	<p>保育グループの「チューリップ」に来ていただき、月2回西図書館で実施しています。1回につき平均2、3人が利用されています。</p> <p>これはお母さんやお父さんが本を読めるようにというイベントではありますが、初めて子どもを預けてみるお試しのようになっていたりもします。初めて預けてみたみたいな。</p>
<p>事務局（西）</p>	<p>「1回楽しかったからまた来ました」というレポートで利用してくださっている方も大勢いらっしゃいます。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>「英語であそぼう」ですが、年に数回中央図書館で行ってまして、昔英語を教えていた学校の先生でした。</p>
<p>司会 事務局（中央）</p>	<p>ニューヨークに長くいて……</p> <p>学校でも英語を教えていた方が今ボランティアの形で来ていただいております。英語で実際に絵本を読んでもらって、本当に英語に親しむという意味で行っていて、最後に折り紙をするというような、そういう楽しい遊びもして終わっています。</p> <p>結構英語に対してすごく興味があるんだなというのは思っていて、親御さんがその英語を学んでほしいという気持ちもあったりして、ただ教育の場所ではないなというものもあるので、イベントとしてどういう形がいいのかというのを、図書館とボランティアをされている方とすり合わせをしながら、今もいろんな形で行っているような行事になります。</p>
<p>司会</p>	<p>今年度は「全国紙芝居まつり宝塚大会」というのがあり、これはボランティアさんがどちらかというと中心になって、その大会は2年に1回、いろんなところで開かれているんですけど、今回宝塚ということで、結構大きなイベントで、300人ぐらいの人が宝塚に集まってきて、そこで分科会、勉強会をするイベントでしたが、ホテルが埋まるぐらいの人が宿泊されたりでしたが、そういうイベントで、私たちも協力をして、ここの集会室でも全国の紙芝居名人の人とかもいらっしゃって、この方もその一人のようですけど、そういう方の実演を見るような機会を設けられます。</p> <p>この紙芝居は月に1回、ずっと長いことですが、中央図書館のイベントとして行っております。結構宝塚は、紙芝居はいつもある場所という感じにはなってるかなと思います。ボランティアさんの力がす</p>

事務局（西）	<p>ごく大きいんですけど。</p> <p>こちらは「杉山亮さん『ものがたりライブ&講演会』」の写真です。毎年西図書館で開催している子ども読書の講演会で、今年度はこちらの「ミルキー杉山のあなたも名探偵シリーズ」でおなじみの児童作家杉山亮さんをお招きし、子ども向けにものがたりライブ、子どもや本に関わる大人向けに講演会を実施しました。</p> <p>皆さんにも御参加いただきましてありがとうございます。ものがたりライブでは軽妙なお話や動物競馬での臨場感あふれる実況で、子どもたちもとても盛り上がっていました。ものがたりライブは保護者も含め95人、講演会は55人が参加しました。</p>
司会	<p>軽妙なお話、本当にそうだったんですけど、僕ら大人の人が聞いてても、それってほんまの話なのって思っているうちにファンタジーみたいになってるみたいな感じの、すごい語り手としてすごいなという人……</p>
事務局（中央）	<p>「コワイ怪？コワクナイ怪？」という中央図書館で今年初めて行ったものですが、8月の15、16、17の金土日、次の週のまた金土日、22、23、24と2週連続金土日の5時30分から夜の7時まで行いました。</p> <p>図書館が閉まってからなかなか入る機会もないですけど、書庫に入ることが多分ないと思うので、書庫も真っ暗にして懐中電灯だけ持って、その前に1回怖いお話会をして、怖い気持ちにしてからさあ行きましょうということで行いました。</p> <p>残業も発生しましたが、夜の図書館というのを探検するというのもすごくいい経験なのと、ただ肝試しだと、いろんな所で怖いだけのイベントはたくさんありますが、ミッションをいくつか行って、みんなで力を合わせて「ミッションにちゃんと成功すれば先に進めますよ」のようなことをして、成功体験的なことを体験できるように工夫をさせてもらって行ったイベントになります。</p> <p>参加者が延べ109人おり、終わった後にも「すごい楽しかった」、「またぜひ来たい」といった感想をいただいて、普段図書館に来ないような子もたくさんこのイベントには来てくださったので、そういう形で図書館になじみがあってもいいかなというイベントで、スタッフもすごく喜んでもらったことが楽しかったので、ぜひ次もやりたいなと思って企画しようと思っています。</p>
司会	<p>普段知り合いじゃないグループも作ったので、その子らも助け合って、最後の方にはすごく仲間意識が生まれるような感じもあって、すごく微笑ましいというか、素晴らしい感じですね。</p>
事務局（中央）	<p>図書館実習に毎年大学の実習生がお二人と、今回は猪名川高校の生徒がインターンシップで2人来てくださったので、その2人に参加してもらい、企画から「こういうふうになればいいかな」というの</p>

司会	<p>を行ってもらい、最後まで実際にも残って一緒に行ってもらいましたので、そこがすごく助かったところだし、「これあんまりだと思います」と言われたら変えてみたりとかして、一緒に行ったイベントでもあります。</p>
事務局（西）	<p>左上は電気がついていますが、あそこが真っ暗で、真っ暗のところ懐中電灯で照らすという感じで。</p> <p>こちらは「手作りの時間」の写真です。夏休みの定例行事で少し手の込んだ工作をしてもらいます。</p> <p>西図書館では今年度は2日間開催し、押し花のしおりとクラゲふう風鈴を作ってもらいました。</p>
司会 事務局（中央）	<p>中央図書館も。</p> <p>そうですね、ミニミニ万華鏡とか風車と紙コッププロジェクターを作ってもらって、その時もまた大学の実習生が来ている時だったので、手伝ってもらって一緒にやりました。</p>
司会 事務局（西）	<p>毎年工作はすごい人気があって、はい。</p> <p>こちらは「ビブリオバトル」の写真になります。こちらにも御参加いただきましてありがとうございます。学校教育課と共催している「ことばの祭典」の中で、俳句バトルとともに毎年開催しています。</p> <p>ビブリオバトルは、発表者がそれぞれ自分のおすすめ本を紹介し、最後にどの本が一番読みたくなったかを投票してチャンプ本を選ぶコミュニケーションゲームです。</p> <p>今年は小学生7名、中高生3名が発表しました。小学生の部は「トラブル旅行社（トラベル）」、中高生の部は「赤と青のエスキース」がチャンプ本に選ばれました。</p>
司会 事務局（中央）	<p>見ていただいて、嬉しかった。</p> <p>中央図書館の集会室で行った「アコーディオン演奏会」で、10月に行いました。アコーディオン奏者の方がいらっしゃって、伴奏しながら前でビッグブック絵本を読むっていう会と、その後に実際にアコーディオンに触ってみようという体験ができる会となっています。</p> <p>先着申し込みで約30人の申し込みがありましたが、本当に子どもたちがアコーディオンをなかなか触るとか、大人だとちょっとと思うけども、子どもはどんどん触っていて、実際に音が鳴ってすごく楽しそうだったので、こういう形のイベントもいいかなと思っています。</p>
司会 事務局（西）	<p>昨年度は西図書館と中央図書館でインド音楽、今年はアコーディオン……</p> <p>こちらは「人形劇」の写真です。毎年12月頃に「人形劇団こむ」に御協力をいただき、人形劇を実施しています。</p> <p>今年度は「10びきのねずみ」と「魔法使いの鏡」を演じていただきました。</p>

<p>司会 事務局（西）</p>	<p>大変迫力があり、子どもと一緒に来られた保護者の方も見入っておられました。</p> <p>これも大人気イベントですね。</p> <p>こちらも毎年12月に西図書館で開催している「ぬいぐるみのおとまりかい」です。こちらも大変人気のイベントになっております。</p> <p>お気に入りのぬいぐるみと一緒におはなし会に参加していただき、その後ぬいぐるみだけ図書館に泊まってもらいます。</p> <p>お泊り中にぬいぐるみが図書館内を探検した時に見つけたお気に入りの本と、その時の写真を翌日お迎えに来てこられた際にお渡ししています。例年60名を受け付けています。</p> <p>こちらは「司書が選んだ福袋」の写真になります。年始に本の福袋を貸出ししています。</p> <p>西図書館では子ども向けの他に大人向けも御用意しております。包みの中には司書が選んだ本が2、3冊入っており、利用者は包みの外に書かれたテーマからどれを借りるかを選びます。</p> <p>自分では選ばないような本も読めたと御好評をいただいております。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>中央図書館でも行っていますが、こういうふうには並べずにはせずに、言われたら中から持っていくような形なので、実は福袋があったのがわからなかった人もいたりするので、やり方を考えられたらいいかなと思っております。</p> <p>これがつい最近行って、また来週もしますが、「TRPG体験会」ということで、テーブルトークロールプレイングゲームの略ですが、図書館でゲームのイベントをやってみたいという話をされていて、特に中高生が図書館に全然来ないというのがあるので、何か中高生に来ていただけるイベントができないかというので、こういうイベントを行ってみようという若い新人の職員が主に担当して行っております。</p> <p>職員がキーパーという係をやり、実際にプレイヤーたちが集まってダイス、サイコロを振って、それぞれプレイヤーが警察官とか教師とか医者とかいうのを選んで行っていくという話なんですね。</p>
<p>司会 事務局（中央）</p>	<p>自分たちでお話を作りながら行きます。そこが創造力になるような感じで、これも初対面の人らが、子どもたちが集まって、そこで仲良くなったっていう。</p> <p>初対面なので、名前とか学校とかを言わない方が良いのかなという配慮をしていましたが、意外と子どもたちもすんなりと何何小学校ですとか、自分から自己紹介をし始めて、そういうのはあまり大人が考えないのだなと思ひ、学校の話も休憩時間にしたりとか、校長先生がこんな話をしてとかいう話をしたりとか、そういうことができる場だったので、全く初めてでもこうやって協力し合ったりとか、い</p>

事務局（西）	<p>ろんなことが活発に話せるのだなというのを逆に驚いた場面でもあって、今後もまた開催しますが、参加された方が「すごい楽しかった」、「もう1回したい」というふうにすぐに来てくださったので、面白かったのだなというのをすごく思って、今後に繋げていきたいと思っています。</p>
事務局（西）	<p>こちらは「ブックスタート」の写真になります。健康推進課と健康センターに御協力をいただき、月に2回健康センターで実施の4カ月健診の際に赤ちゃんに初めての絵本をプレゼントする取組です。</p>
司会	<p>親子の前で実際に3冊の絵本を読み聞かせし、お母さんお父さんに絵本の読み方や赤ちゃんの反応を見てもらいます。絵本を通して親子の触れ合いを深めてもらえればと考えております。</p>
事務局（中央）	<p>これも長いことやってまして、なんていうか、とにかく赤ちゃん可愛いですね。</p>
事務局（中央）	<p>赤ちゃんが可愛いって、私たちも休館日の水曜日に行くので、休みの日に出勤するんです。2人ずつ順番に。</p>
司会	<p>でもなんかこう、赤ちゃんね、「ちょっと抱っこしておいてもらえますか」と頼まれて抱っこするとか、そういうのが楽しくて、お役に立っているかどうかわからないですけど、行かせてもらっています。</p>
事務局（中央）	<p>「4カ月でも反応するんや」というふうに気づかれる方が多いというのは実際、これは本に関心があるお父さんお母さんより、むしろ関心がない人にこそ届いて、「絵本とか読んであげてほしいな」というような気持ちでしているものなので、だから健診の時にしているんです。100%ぐらいの人が来るような場所でこそやるべきことっていうか。</p>
事務局（中央）	<p>絵本を1冊プレゼントするんですが、喜ばれる方もいれば、「やっぱりいらない」と言う人もいたり、もしくは全部の本が家にあって、「もう全部持ってます」という方もいて、本当に色々違うんだなというふうに思います。</p>
司会	<p>そうですね、はい。</p>
事務局（中央）	<p>これが「出前図書館」で宝塚自然の家に出張した分になります。本当は「移動図書館で来てほしい」と言われていたのですが、この日が土曜日で移動図書館車が巡回する日だったので、移動図書館では行けずに、公用車に乗って私たち何人かスタッフで本を持って行って、その場で本を読んでもらったり、すごい好評だったのが、新聞紙を古いのを持っていて、兜作ったり、紙鉄砲は今の子はしないのか「紙鉄砲を作って遊んでみよう」というようなことをするとすごく楽しんでくれました。</p> <p>図書館の利用につながるように利用券の発行もできるようにしていましたが、遠くから来ている方が多くて、返しに來れないので本を借りませんというような感じだったんです。</p>

<p>司会 事務局（西）</p>	<p>イベントだったので、なかなかそこにはつながらなかったのですが、そういう形でPRができて良かったのかなと思ってます。</p> <p>本と出会う場所は図書館じゃなくてもいいなというのがありますけど、はい。</p>
<p>事務局（西）</p>	<p>こちらは「市役所見学に行こう」の時の写真です。社会教育課で販売している市庁舎のペーパークラフトを組み立て、そのモデルの市庁舎を実際に見学するイベントで、子ども6名、保護者4名が参加しました。</p> <p>午前中の市役所見学では、まち遊び委員会のガイドのもと、議場や市長室なども見ていただきました。</p> <p>午後のペーパークラフト制作では、ペーパークラフトの監修に携わった中川千晶さんに来ていただき、中川さんの解説付きで組み立てていただきました。</p>
<p>司会 事務局（西） 事務局（中央）</p>	<p>これも満員やったんですね。</p> <p>そうですね、はい。</p> <p>この「古民家であそぼ！」は、社会教育課と共催でやってるイベントで、旧和田家住宅というところがありまして、そこで実際に絵本を読むのですが、トントン相撲とか古民家で遊ぶ形なので、今回はカルタもしましたし、普段図書館でしないような遊びをしました。</p>
<p>司会 事務局（中央）</p>	<p>その旧和田家の住宅自体の魅力もすごく大きくて、昔の家でこんな感じなんだっていうのを体験しながらの遊びとかもするというイベントです。</p> <p>300年ぐらい前の、江戸時代の。</p> <p>また旧松本邸というのが桜ガ丘にあるのですが、そちらの一般公開を春と秋に行ってまして、その時に大変好評のミニコンサートをその場所で行っております。楽器が古楽器なので。</p>
<p>司会</p>	<p>リュートの大きい、名前忘れましたが、ヴィオラデガンバっていうのが左らしいですけど、そういう古典というか、古楽器の演奏というのはあまり聞けないですが、お知り合いの人がいる中で来ていただいて、楽器演奏だけではなくて、松本邸の公開に来ていただいた方も多いと思いますが、いろんなイベント他にも行ってまして、和紅茶とって、この頃流行ってる日本の茶葉で作る紅茶のワークショップも行っています。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>「認知症キッズサポート」、キッズと大人の両方ともですね。キッズは夏休みに行っていますが、大人向けの分が6月に行っております。これは市役所の方じゃないのね。</p>
<p>司会 事務局（中央）</p>	<p>市役所の高齢福祉課とか。</p> <p>地域包括支援センターの方が講師として来ていただいて、図書館で行っております。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>グループになっているいろいろ話をするのですが、普段悩みとかも、な</p>

<p>司会</p>	<p>かなか知ってる人に言いにくいというのを逆にここでは言えるみたいなことで、お互いの話とかも、認知症の家族がいるという話をされたりとかも大人向けの方ではありました。</p> <p>子どもの方は、子ども向けに「認知症ってこんなことになるんだよ」、「頭脳の中がこうなるんだよ」ということを、「脳の重さはこんなですよ」と脳の模型のような物を持ってきてくださって、「あ、こんななんや」というような話をしながら、おじいちゃんとかおばあちゃんとか、こういう形の人が見たら「困ってる時どうしようかな」というような話をみんなで考えるというイベントになっていました。</p> <p>ちなみに認知症サポーターというのは、「この何時間かの講習を受けたらサポーターですよ」という仕組みに変わり、それでそうするとこういう物がもらえたりするんですね。最近はバッジになってます。</p> <p>図書館の職員、アルバイトさんも含めて全員が認知症サポーターですということになっております。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>これは図書館の見学を数回行っていまして、図書館に歩いて来れる場所の学校に限られてしまうのでいつも同じ学校だったりもしますが、その時におはなし会も一緒にさせてもらって、実際にお話のグループのボランティアの方が絵本を読むのと、簡単なストーリーテリング、素話をしてくださったりとか、そういうふうなプログラムを組んでやっております。</p>
<p>司会</p>	<p>あとは図書館見学なんで、もちろん書庫とかにも入って行って、書架をグルグル回して動かしてみたりしております。西図書館も同じようなことを……</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>「トライやるウィーク」は中央図書館、西図書館ともに受け入れており、どちらもビブリオバトルは行っていましたか。</p> <p>西図書館も行っていますよね。ビブリオバトルは大会のように行わずに、実際にトライやるウィークに来てくださった子たち、いろんな中学校の子がいるのですが、その子たちに必ず一緒にビブリオバトルを行ってもらっています。</p> <p>1人1冊おススメの本を持って来てもらい、その場で自分がこの本がどんなに好きかということをお話してもらおうようなことをしております。</p> <p>他にも図書館の貸出しのカウンターに座るとかもあるのですが、ビブリオバトルをすると、そういうことを考えているということの勉強になったり、本離れというけれど、こんなに本を読む子がいると、こんな難しい本をこんなに読んでいる子がいるのだということが、私達的には刺激になるというか、勉強になる場所でもあります。</p>
<p>司会</p>	<p>こういう近しい感じで作るビブリオバトルは知り合いになる。また知らないグループが知らない学校同士が知り合いになるのにもす</p>

事務局（中央）	<p>ごくいいので、初めの方にこれを持ってくることが多いです。1週間の初めの方にすると、その後知り合います。</p> <p>これは中央図書館でも実際にまだ飾っていますよね。雲雀丘学園の中高の先生たちと一緒に連携して行っているものです。</p>
司会	<p>中高生が創意工夫でポスターを作って、いろんな本をお勧めして、それぞれ勧め方はバラバラですけど、勧めてるというのを下に貼っている風景……</p>
事務局（中央）	<p>自分で貼っていましたね。</p>
事務局（中央）	<p>高校生自身が図書館のどの場所であれば目を引くかというのを全部考えてやっています、去年から雲雀丘学園が来ています。</p>
事務局（中央）	<p>コラボして……</p>
司会	<p>営業に行って知り合いになってもらったんですけど。</p>
事務局（中央）	<p>これは大学の司書課程ですね。今年は大阪芸術大学と同志社大学の1人ずつ違う大学でしたが、実習を同じ日程にしてもらい、図書の整理実習とか工作とか、実際におはなし会に入ってもらって、絵本を読んだりとかもしています。</p>
司会	<p>そういうことも例年何人か。</p>
事務局（中央）	<p>毎年2人ずつぐらいは行っています。</p>
事務局（西）	<p>こちらは先生たちのビブリオバトルの写真です。夏休み期間中、小中学校の先生の図書館での初任者研修に合わせて、先生たちにもビブリオバトルを実践してもらいました。</p> <p>先生方はやはりお話が上手で聞き応えのあるバトルでした。一般の観客にも入っていただき、子どもたちも先生の発表に聞き入っていました。</p>
司会	<p>今年は中央図書館、西図書館合わせて40名もの新任の先生が来られて、すごく多いんですけど、来年も多いうて聞いてますけど、中央は5人ぐらいでビブリオをしています。</p> <p>いろんな学校の先生の研修の機会をできるだけ、今北委員にも御協力いただいて、図書館で受け入れる中で子ども読書活動推進計画の内容とか、御協力いただけるよう意味を説明することで、これから先、学校で広がっていってもらえたらいいなと思う気持ちで、あとはいろんなボランティアさんの活動を紹介することで、学校でもそういうこともボランティアさんと呼んでもらいますよというのを紹介することで、子ども読書の活動を推進できるようにと思う気持ちで行っています。</p> <p>何回かいろんな機会を設けさせていただいています。これは全然余談ですけど、市史資料室を御覧いただいた方もいると思いますが、歴史のことも担っていますので、その学習グループの御希望により市の歴史のことを簡単に説明して、実際に市史資料室が持っている江戸時代の古文書を実際に触ってもらうような機会を設けたり、合わ</p>

事務局（中央）	<p>せて図書館の見学やデジタルミュージアムの紹介とか、国立国会図書館のデジタルのアーカイブを使うと、こういうふうにおうちでも簡単にできますよというのを紹介したという感じの講座です。</p> <p>その他いろんな講座を実はしてまして、結構ビッグイベントも文字だけなんですけど、富岡鉄斎と平安時代とかは、京都国立近代美術館の人気のある学芸員さんに来ていただいたりもしますが、そんないろいろなことを行っております。</p> <p>子どもたちの「夏休みの図書館探検隊」ということで、いろんな体験したりとか、西図書館は「夏休み本見つけ隊」といって、予約の本を僕らが探しに行くことがあるんですけど、そのようなことを真似て、本棚からこの本を探してというのを子どもに体験してもらうイベントを行っております。</p> <p>あと、大人向けの絵本をお互いに紹介し合ったり、語り合ったりする場所として、「絵本を巡るあれこれ」というのをしております。説明代わりますか。</p> <p>その前に去年の10月から今年の3月まで、山本南分室が入っている東公民館が大規模改修工事のため休館になっていました。山本南分室も休館になりましたので、山本駅から歩いて徒歩10分前後かかる場所で、山本地区にあるひらい人権文化センターの1室で予約の本の貸出ししています。今もしております。</p> <p>山本南分室の開室時間に合わせていますが、残念ながら日曜日はひらい人権文化センターが休館ですので、日曜日と祝日が休館になって、利用者様には御不便かけていますが、予約の本の貸出しが結構あります。</p> <p>目安としましたら、1日の平均の利用人数は99人で、同時期の山本南分室の利用者数のだいたい59%、6割ぐらいが利用しています。貸出冊数も同時期の約半分、ですから、大体半数から6割の方が山本南分室は東公民館休館のため休室ですが、今利用されているという状況です。</p> <p>ひらい人権文化センターの一室のロッカーに予約の本を置いて貸出しを職員がしております、他に本を少し置きまして、段ボールに入れておくことによって、やはりこれを見て帰られる方もいる状況です。</p> <p>今年3月まででひらい人権文化センターでの貸出しは終わりました、山本南分室に戻ります。</p> <p>休室になってもどこかでできないかということで、いろいろ探している協力求めて、こういうことが結果できたってところなんです。</p> <p>ただ本が置いてある場所と違って、予約の本が置いてあるということで、全然違う形になっていると思います。あまり人が映ってな</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

司会	<p>い、まだっていう、工事中の中の写真ですけど。</p> <p>こちらは先ほど申しあげました通り、東公民館の休館で全部の工事があって、3月にやっと拡張工事ができるようになりました。</p>
事務局（中央）	<p>つい最近、3月13日、タイルのカーペットを敷き終わりました、ロビーの御見学をされていると思いますけれど、14平米ぐらい、拡張できました。図書館協議会の皆さんからの提言からやっとここまでこぎ着けた状況です。</p>
司会	<p>今、本を入れる作業をしており、ロビー側には児童書を置いて、少しでもゆったりと子どもさんが見れるようにして、中側は大人用の本を置いたりとかを今している状況です。狭いカウンターも若干広くなるようにしております。</p>
事務局（中央）	<p>よく冊数はどのぐらい増えたんですか、という感じがあるみたいですけど、4千冊から5千冊ぐらいは余分に置くようになったと思います。</p>
司会	<p>今鋭意作業中です。</p>
事務局（西）	<p>お金がほとんどかからない。工夫して作るということになったので、もっとお金をかけられたら良かったですが、そういう結果になったんです。</p>
事務局（西）	<p>違うテーマですけど、誰かいいのかな。</p> <p>子ども読書の参考指標について御報告させていただきます。子どもの読書活動推進計画の達成状況についてですが、宝塚市では平成14年に国が策定した子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画に基づいて、宝塚市子どもの読書計画計画を策定し、子どもたちの読書活動を支援するため、図書館が中心となって様々な事業を行ってきました。取組を始めてから今年で17年目になり、現在は第4期計画を実施中です。</p> <p>本計画の達成状況の参考指標として、こちらに記載の4つの項目を設けております。上の2点、読書好きな小学6年生の割合、読書を全くしない小学6年生の割合については、毎年4月に実施されている全国学力学習状況調査の設問の回答から取ったものです。</p> <p>まず、読書好きな小学6年生の割合は、「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、または「どちらかといえば当てはまる」と答え答えた小学6年生の割合です。計画策定時の令和4年からは1.5%増加しました。全国平均は69.7%なので、単純計算、単純計算すると、宝塚市の小学6年生は全国平均よりも8%近く本を好き、本を読むのが好きな子が多いという結果になりました。</p> <p>次に、読書を全くしない小学6年生の割合は、「学校の授業時間以外にも1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」という質問に「全くしない」と答えた小学6年生の割合です。ここでの読書は、教科書や漫画、雑誌は含みません。全国平均29.2%よりは少ないも</p>

	<p>の、令和4年度からは1.8%増加してしまったことが読み取れます。</p> <p>図書館の利用も、予約本だけ受け取って帰るといった利用者も多く、「読書に割ける時間を取るのが難しい」という声を聞くので、読みたい時間に時間、読みたい時や時間が空いた時にすぐに手に取れる場所に本がある環境を整えていけるように引き続き取り組んでまいります。</p> <p>次に、市立図書館の団体貸出を利用した団体の数ですが、本年度の数字がまだ全て出ていないため、昨年、令和6年度の数字を御紹介させていただきます。令和6年度も、学校や育成会を含め、子どもたちに関わる91団体への貸出しを行いました。令和4年度からは1団体増加しています。最後に、市立図書館と関係機関が連携して行った事業の回数ですが、こちらも本年度の最終的な回数が未定のため、令和6年度の数字を御紹介します。令和6年度は令和4年度から少し増加して96回実施することができました。</p> <p>また、来年度も引き続き関係機関と連携して、子どもたちが読書を楽しめる事業を行っていかれたらと思っております。以上です。</p>
<p>司会 議長</p>	<p>バラエティがありますけど、他にもいろいろ行っているとは思いますが、7年度の事業の紹介、長くなりましたけれども、以上です。</p> <p>御説明ありがとうございました。プロジェクターを入れてスライドを投影していただくことで、画像を見ながら説明を聞くというのは非常に雰囲気伝わってきやすいですし、良かったなと思います。</p> <p>ただ、その画像を選んだりとか、それにキャプションをつけたりとか、非常にお手数おかけしたと思いますけれども、御丁寧にさせていただいてありがとうございます。</p> <p>それでは、今の事務局からの御説明を踏まえて、委員の皆さんから御質問や御意見等ありましたら、どなたからでも結構ですのでお願いいたします。</p>
<p>A委員</p>	<p>いろんな行事を説明していただいたんですが、前年比に対して全体的にどうですか、増えてるんですか、減ってるんですか。</p>
<p>司会 A委員 事務局（中央）</p>	<p>参加の人、そうですね。</p> <p>定員もあるでしょうけど、コスト的に合っているのかという。</p> <p>まだ全体的な数字は取っていませんので、申し訳ないです。</p> <p>ただ、ここで紹介したのは定例のおはなし会とかは少し減ってる傾向もありますが、大きいイベントは増えている傾向がございますので、すぐに数字が出なくて申し訳ないのですが。</p>
<p>A委員</p>	<p>あと新規に起こしたものと、見直しで打ち切るものとかもあるかと思いますが、その辺もわかりやすくしていただけたら、効率もあるだろうから、だらだらと続けるのではなく、打ち切るものは打ち切る。</p>

司会	長くやってるおはなし会などは本当に悩んでるところで、なかなかね、参加っていうのが難しいんですよ。ただ図書館としてそれを行わないというのもなかなか難しいです。
A委員	あとリサイクルの文化ってね、ここに来るのをいつも楽しみにしているが、今日は雑誌だけで悲しい。
司会	いろんな感想は来られた方もあるとは思いますが、いいように言うと出会いを楽しんでいただければと思います。
議長	他に、はい。B委員。
B委員	<p>2つほど質問があるんですけども、先ほど老若男女に対しての素晴らしい、いろいろな年齢層に向けてのイベントがあって、とても明るい雰囲気がいいなとは思いましたが、私はテープライブラリーという音訳グループの代表として来ていますが、テープライブラリーは視覚障害者の方を中心に、自分で読めない弱視の方とか、高齢者の方とかに音訳して差し上げるというボランティアですけど、どうしても障碍福祉課の方と連携したとしても、なかなか個人情報がどうこうとか、なんとかかんとかでなかなか連携していただけないのですが、今このイベントの中でも連携して進めましたというイベントがあるにも関わらず、視覚障害者に対してのイベントの紹介なかったと思いながら、そういった方は自分ではなかなか読書が、目が見えないので耳からの情報が、本もすごく好きっていう方とか、朗読会とか音楽を聴いたりとか、そういうのも楽しみにしていらっしゃる方もいらっしゃるんで、ぜひ図書館だったら障碍福祉課の方もなかなかパイプなんかと思って、そこら辺のイベントも1つか2つ加えていただけたらありがたいなと。</p> <p>私たちも協力はいくらでも差し上げます。なかなか一団体から言っても耳を貸してもらえないことも多かったでするので、そこら辺、逆に図書館と連携して、そういった方々への読書活動への協力をさせていただけたらなと思うんです。</p> <p>それと、先ほどおはなし会、長いことやってるんですけど、私もお話の方のグループにも入ってるんですけど、よく御存じだとは思いますが、毎回5人も来ればいいかなっていう感じなんですけど、やはり常連さんっていうのがいまして、兄弟関係も来るし、そういった方、子どもが大きくなって、1人でも2人でも聴いてらっしゃる方がいらればいいなという感じでやっていますので、ぜひそこはなんか打ち切りのお話になっているのか。</p> <p>打ち切るとか思ってないとは思いますが、誰も。</p>
司会 B委員	<p>そうです。100人、200人も全然望んでませんので、1人2人でもそういったね、お話を差し上げる機会があったらいいなと思っていますので、ぜひまたそこら辺もよろしくお願いします。</p> <p>そうですね。</p>

司会 議長	<p>ありがとうございました。委員から2つ御提案があったと思うんですけども質問と、一つは耳の不自由な方のイベントはあるんだけど、目の不自由な方のイベントが今のところないので、その辺連携は考えられないのかということだったんですけども、その辺はいかがですか。</p>
司会	<p>例えばこういうふうなことをしたら、そういう方たちの役に立てるよっていうのが僕ら想像力が多分足りないからできてないところあるかもしれないので、逆にこういう感じのことをしたらいいのところがうかっていうのを教えてもらうのには一ついいかなとか思ったり、確かに障害福祉課さんに手話を通じてが多いんですけど、言いやすくはなっているので、こう橋渡しというのも違いますけど、協力をお互いにするとか、アイデアでできたらいいなって思ったところではあるんですけど。</p>
B委員	<p>去年とか子ども推進、この読書活動にかけてというか、子どもの児童書のそういう音訳のテープがないなっていうのが思い立ち、ないことはないんですけど、少ないなっていうので、宝塚市のそういった特別支援学校の図書館に、そういった音訳したテープとかを収められたらいいなっていう、なかなかそのハードルが高いみたいな話で。</p>
司会	<p>収めるのにハードルが高い。</p>
B委員	<p>1回私たちが一団体として行こうと思っても、結構ね、もうあんまり耳を貸してもらえないので、大きな団体、図書館とか市役所とか広報課とか言っていたらいいなと思いつながら、そこすらもなんか聞きにくいみたいな。</p> <p>いやいや、よくわからないですけどね、そこはね。だからそういった視覚障害者の方のお子さんとかもいっぱい絵本を読んであげたいし、児童書も読んであげたいし、そういうのを録音したのも届けてあげたいし。</p>
司会	<p>全国的にはそういったグループがそういった学校に文庫を作って、定期的にサービスしているっていう県もあるみたいなんですよ。でもそこまでは言いませんけど、そんなのがあったら、子どもたちももっとこれを読みたいから翻訳してとか言いやすいんじゃないかなとか、将来的な希望ですけど、そういうのもあったりとか。</p>
司会	<p>なんちゅうか、そうですね、こう必要としてる子どもとか必要としてる方の障害のある方とかに、うまくマッチングできないっていうのがなんかある。常になんかそんな問題としてあるみたいで、だから言われたやつがうまく届く方法が作れないかなって……</p> <p>逆に御質問させてもらいたいな。そういう具体的に困ってる子がこんなにいるとかいうようなことを聞くというか、情報としては伝わってくるんですか。</p>
B委員	<p>ベールに包まれて、何人いらっしゃるとか、どういった状態とか、</p>

司会	<p>全然わかんないんですよ。</p> <p>そうなんですよ。障碍福祉課でもなんかそんな感じなんですよ。そう、聞くんですけど、僕らも。</p> <p>その実態として、なぜかっていうふうに、ベールかどうかわかんないです。</p>
議長	<p>そうなんですけど、それは把握ができてないということですか。それとも個人情報で出せないということなんですか。</p>
司会	<p>なんか、いや個人情報でというふうに聞いてあることはないの。出ないっていうのがちょっと考えにくい。</p>
B委員	<p>宝塚市にその学校みたいなところは、市域にはないのか。</p>
司会	<p>1箇所、山本、宝塚市。</p>
B委員	<p>山本にあるんですか。</p>
司会	<p>いや、安倉の上の方に。</p>
B委員	<p>図書館にね、いわゆる個別というか、冷たい話だけどね、それは求められるのかなりしんどいなと思うんですよ。まあ図書館だったら、例えば国会（図書館）なんか、「みなサーチ」とかね、「サピエ」とかね、そんなのだったらまだそれは得意だと思うんですよ。</p>
A委員	<p>だから個別、個別っていう言い方が冷たい言い方で申し訳ないけどね、案件にね、とてもじゃないけれどもね、人は割けないと思うんですよ。</p>
司会	<p>人はでもボランティアの人とつながって……</p>
A委員	<p>ボランティアの方とか、そういう方がね、そういうふうなまとめとかね、やっていただいて、その次に図書館という形になるかと思うんですけどね、主体的に。</p>
司会	<p>お助けできるかところがあつたらいいかなと。</p>
B委員	<p>できたらと思いますね。1団体ではなかなか及ばないところがあつたりとか、できたら今いろんなイベントされてるな、すごいと思う中で、その中の一つでも決定して実現したらいいなという。</p>
司会	<p>忘れないというか、忘れないで考えておくべきやと。</p>
議長	<p>一つの特徴になりますよね。宝塚市の図書館がこういうところの力を入れているっていう。</p>
B委員	<p>（中央図書館の）入口のところに手話の本が結構並んでたんですけど。</p>
司会	<p>3月が宝塚市、手話月間なので。</p>
B委員	<p>その時に手話月間じゃなくても、例えば点字のこれわかるって、触ってみてわかるって。「あ」はこういうプツプツっていう、これだよっていうような。</p>
議長	<p>結構盛んですよ。</p>
B委員	<p>そういうのも飾っておいてもいいですよ。ついでにというか。</p>
議長	<p>そういうとっかかりから。</p>

司会 議長	<p>そうですね。</p> <p>そういった方たちが、誰かサポーターがいないと家から出れないみたいなものもあるので、出て、そういった混ざるといふきっかけにもなったらいいかなと。</p>
B委員 司会	<p>一般の人の注目を浴びることもできるし。</p> <p>言っていたようにサピエっていうのがあるんですけど、それがその全国的な、そういう音声データというかを提供しているところがあって、図書館もそれにやっってるし、個人でも聞けるというので、それで個人でも聞けるけど、操作とかができない人に対しては、図書館がそれを送ってるというサービスはしてるんです。その人数っていうのはどのぐらいかな。使ってる人。</p>
事務局（西） 司会	<p>西図書館は現時点ではお二人になりました。</p> <p>中央は別。</p>
事務局（中央） 司会	<p>もっと多い。</p> <p>でも合計で多分10人もいかないぐらいの人。</p>
事務局（中央） 司会	<p>10人はいるんじゃないかな。</p> <p>まあ10人、20人ぐらいの感じで図書館を利用させていただいてるっていうのはあることはあるんですけど、それぐらいの方々がそういうサピエを利用っていうのも、他でも個人で利用されてたら全然あれですけど。</p>
B委員	<p>素晴らしいあれがあるのに、そういった方たちとお話しする機会もあるんですけどもね。どういったサービスがあるのか知らなかったって。</p>
司会	<p>それは残念なことで。</p>
B委員	<p>もっとそれが周知されれば利用されるんじゃないかなっていうのももったいない。</p>
司会	<p>はい、周知はもう常にずっと努めないといけないと思うので、もしあれなら教えてください。その方がいらっしゃると。いや、もう忘れないで、そこが大事だってことも思います。すいません。</p>
A委員	<p>どうしても受け身っていうかね、こちらから調査ってなかなかできないっていうかね、対面（朗読）なんかでもね、今オンラインでやってるようなところもありますからね、図書館によってはね。</p>
司会	<p>そういう事業をされているところもあります。</p>
A委員	<p>なかなかそれは対象がわかってての話になるから。</p>
司会	<p>そこがなかなかうまいこといかないというか、わからないと思います。</p>
B委員	<p>障碍福祉課さんには名簿があるらしいんですけど、なかなか開示してくれない。</p>
司会	<p>あるんですか。</p>
B委員	<p>それは一回だけ、大体市内に5、6人前後いらっしゃるらしいんで</p>

<p>議長 A委員</p>	<p>す。 でも、対象として考えるべき。 それはあれやったらまだ図書館の方からアプローチの仕方っていうかね、その案内を出すとか、そんなことね。</p>
<p>司会</p>	<p>またそれは1回聞いてますけど、それ何でも聞いたって言ったらあかんから、まあなんとなく聞いてみます。</p>
<p>B委員</p>	<p>それもね、5、6年前のやっとなプッシュして、その時にテーブルライブラリーでこんなテーブルありますよっていうのは紹介して、結構ね来たんですよ。こんなのあるんだみたいな感じがあったりしたので。でもまあ太いパイプの方が……</p>
<p>議長 B委員</p>	<p>もう一つありましたね。お話の読み聞かせ会も。 おはなし会ね。なかなかね。</p>
<p>司会</p>	<p>御存知だからなかなかですけど、この子お話聞けて今すごく喜んでるんやって感じるタイミングは結構あるんです。少人数ではあるんですけど。 だからやって意味ないってことは全然思ってないですし、あとはどういうふうに来てもらうかの問題であってとは思うんですけど。 わからないですけど、おはなし会っていうネーミング自体にこう惹きつけられる魅力がないから、もうちょっとなんかあっているものもあるかもしれないなと思ってみたり。</p>
<p>議長</p>	<p>さっきの夏休みの肝試しじゃないですが、なんとか会の怪談の会でね、あれなんかネーミングが良かったと思うんですけど、そういう時代の流れに合わせてね、おっしゃるようにネーミングを。 怖い話好きなんですよ。あんな感じでね。通常のおはなし会と違うみたいだね。</p>
<p>司会 議長</p>	<p>ちょっとやってみようかなと、思いますかね。 それとその周知の仕方というか、広報の仕方はどうなんでしょうかね。問題はないんでしょうか。</p>
<p>司会</p>	<p>最近おはなし会はあまり手をつけてないというか、できてないと思うんですけど、市のLINEに載せると意外と来たなと思うこともよく思うので、このTRPGもLINEに載せて来ているってなっているので、それでまだできてない、ちゃんとできてないです。 インスタっていうのも取り入れようというふうに思っているんですけど、まだできてないんですけど、広く広まる方法としてはそっち方向も考えていますね。</p>
<p>事務局（中央）</p>	<p>TRPGは、聞くと学校の掲示板で見ましたとかって、学校に確かにチラシを配らせてもらって、先生たちにお問い合わせしていたので、ちゃんと貼ってくださってるみたいで。 学校の掲示板とか学校図書館の掲示板で見たっていう子が多かったの、なんかその学校の掲示板ってすごいなって私思ったんです</p>

<p>議長</p>	<p>よね。なので、そういうふうにおはなし会をやってるってことも、そういう形でもし一回周知できれば、もしかして来るのかな。すみません。失礼しました。</p> <p>私もそのターゲットが小学校低学年の子だったら、小学校にね、掲示していただく。それでちっちゃい子どもたちが分かりやすい、興味を持ちやすいようなネーミングとかキャッチを考えてすればいいんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>その広報の仕方ね、PRの仕方によって集まるかも。知らない子が多いかもしれませんね。だから図書館に行ってる子も多いうて、今北委員がおっしゃっていたので、行くのだったらこのおはなし会をやってる時に行けばいいよみたいな感じでもいいと思います。</p>
<p>司会</p>	<p>結構ね、強引に誘うんですけど、来てくれないんですよ。御存知だと思いますけど。</p>
<p>議長 C委員</p>	<p>C委員。</p> <p>広報たからづかに、イベント、図書館、西図書館も含めてこんなのやってますというのは載りますよね。</p> <p>それを見て参加しようという方も多いと思うのですがけれども、この前、今画像でもあったんですけども、怪談話、私参加させてもらいました。すごくいいポスターというか、A4サイズの凝ったポスターを作っておられて、私も多めにもらって、地域に貼らせてもらったんですけども、いろんなイベントがありましたよね。</p> <p>例えば松本邸の話とかいうのは、ポスターとかこしらえられてるわけですよ。だから今上がってきたビブリオバトルなんかポスター作っておられたと思うんですよ。学校関係とかにも貼られたと思うんですけど、大人向けの図書館事業の中身で、例えば落語なんか大人向けですしね。</p> <p>その辺のポスターっていうのは一体どれぐらいの予算でどれぐらい作ってるんですか。</p>
<p>司会 C委員 事務局（西）</p>	<p>多くは自前っていうか、紙代と普通の自前のプリンターで。</p> <p>プリンターで。</p> <p>深津さんの分は西図書館に勤められていて、今産休に入られているんですけども、臨時職員の方がそういうのがお得意な方がいらっしやっただので、その方が全部デザインして作っていただきました。</p>
<p>司会 事務局（西） C委員</p>	<p>もう自前のプリンターで。</p> <p>自前のプリンター。</p> <p>図書館に来られた方はそれを手に取って見られるんですけども、行ってみようかと。新しいニューカマーというか、そういう事業に参加してもらおうと思ったら、何らかの形でそれをどこかに、今市の方は掲示板をなくすとか言い出してなくなってるんですけども、それも地域によってはなくなるまでちゃんと使用許可を得て使</p>

<p>司会 C委員</p>	<p>ってるんで、そういったところにうちの町会なんか回してもらって。 活用できるところは活用するということですね。 そしたらこんな事業を図書館というのはなさってるんだよねとわかるから。 どうしても表になってる広報たからづかでは、内容のイメージがつかまえにくいんですよ。表になってるだけやから。</p>
<p>司会 議長 D委員</p>	<p>まあ、そうですね。 はい、D委員。 広報関係のことみたいかなと思うんですけど、抗いがたい、なんか時代の流れるなところもあるのかなと思ってて。 今ってもう本当に共働き家庭ってすごく増えてるんですよ。それは私も学校にいてもつくづく感じますし、現実的にも市立幼稚園も半減してましたよね。保育所がたくさん。</p>
<p>司会 D委員</p>	<p>はい、そうです。 なんか本当にちっちゃいお子さんを伴って図書館に来れる余裕のある家庭も減ってるんじゃないかなと正直思うんですよ。心と時間の余裕のある家庭が減ってる。 また、昔は私たちがいる時なんかあったら、もう絵本をたくさん買ってもらってましたけど、もう今ってほとんどYouTubeを見たりとか、そういうのが。</p>
<p>司会 D委員</p>	<p>時間の使い方。 映像を見て、子どもをお守りするということなのか、いう形で、またなんか変わってきてしまっていて、なかなか難しいところはあるのかなと思ったりはしますね。 その努力不足とかそういうじゃない部分もあるかなって。</p>
<p>司会</p>	<p>みんなが土日休みではないとは思いますが、土日にお休みの方っていうのも、その時に図書館を選んでもらえるかみたいなものもあると思いますし、ただ、何と言うか、もうこんな言葉使い古されてもう言わないけど、イクメンって言いますか、お父さんがすごくそれに参加してるのも図書館でも常に感じてて、そのお父さんが土曜日とか日曜日の朝に図書館に連れてきてくれるという形になってるなって思うんです。時代の流れとしても。 それでそのお父さんは、意外とおはなし会って書いてあったら一回行ってみようかなみたいな感じで来てくれるけど、そこがまたミスマッチになってたりするんですよ。思ってるおはなし会と違うという部分とかの一面もあったりするんですけど。 実は、おはなし会っていう名前でやってるとイメージする中では、絵本をたくさん読んでもらえるとか、遊んでというか、手遊びなりを入れたりとか、遊んでもらえる場所的なイメージで来られたら、時と</p>

B 委員	<p>場合があるんですけど、ストーリーテリングを最後に組み込んだ、「なんかうちの子には年齢が高い対象やったな」と思うみたいなことになってみたりとか、なんかそこはお知らせと来てみたらどうかっていう、まあ一回来てもらうのはどうしようもないので、もちろんおびき寄せのように来てもらった方がいいかもしれないですけど、まあでもそういう中をやりながら、もしかしたら「ストーリーテリングってこんなあるとは知らなかったけど、良かったね」と思ってもらえるとかね、「あったらいいな」とかみたいな感じのことをやってるのかなみたいに思ってるんですけど。</p> <p>おはなし会、宝塚の場合、ストーリーテリングって、素話で耳から聞くお話のコーナーもあるんですよ。他の西宮のおはなし会もやってるんですけど、そっちはないんですよ。宝塚はそういうストーリーテリングを組み込んでるのすごくいいことだなって思うんです。</p> <p>やはり絵に頼らず、耳から聞いて想像しながら物語をっていうのがいいと思うので、ぜひ。</p>
司会	<p>それはそれ、もちろんそれがいいなっていつも感じていることの一つなんですけど、それとは違うもので、絵本の会っていうのがもちろんあるんですけど、そういうそっちはそっちでまたいいかなと思うし、ストーリーテリングここでその話をすると長くなっちゃうからあれですけど、なかなかね、そのあまりなじみのない方、ストーリーテリングに本当に引き込まれるようになる子もいるけど、その少数人数、なんていうか、割合が少ない。</p> <p>どうしても残念なことだけど、それが上げていきたいなみたいな気持ちはあるんですけどね。そのおはなし会っていう名前にストーリーテリングする側からの方から見ると、おはなし会のおはなしっていうのはストーリーテリングっていうのが入ってるお話なんです。実を言うとみたいな感じですよ、B 委員。</p>
B 委員	<p>私の経験から言うと、西宮には住んでるんですけども、子どもが小学生の頃に図書館のボランティアっていうのをやってたんですけど、そこで読書の時間を読書期間中に年2回もらって、ストーリーテリングを全学年にするっていう試みがあったんです。</p> <p>初めはもうワイワイワイワイ言ってたくせに、2年目、3年目、4年目ってなると、みんながもう居ずまいを正して聞いてくれるようになって、すごく聞いてくれるようになったなと思って月日が経って、この間20年経ったんですけど、もしかしたらBさんじゃないですかって大きくなって言っていたいたんですね。「あの時僕はすごく面白かったんです」って。あれで「また今もやってあげてるんですか」みたいな話があったんで、つながってるっていうか、その子の心にはそれが1人2人じゃなかったんです。</p>
司会	<p>言い過ぎたなと今思いました。小学生になると聞いてお話に入る</p>

議長	<p>子は結構みんなと言ってもいいぐらい、そのクラスで同じ学年が揃ってるところですとかすると全然違うんですね。図書館みたいに誰がいつどの年齢の人が来るかわからないところでストーリーテリングするのなかなか難しいと思うんで、僕はあんまりそんなにしないのに言ってるだけなんですけど。</p> <p>1個しかお話できないですけど、すみません。それにしても揃ってるところで学校のクラスとかですると全然違うというのも見たことはありまして、それがすごい実はいいかなと思う方向性だとは本当に思います。</p> <p>その読み聞かせの方にすごく流れてしまって、今日は全般的な話をしないといけないので、そろそろ元に戻したいのですけれども、先ほどの意見に対しまして、私の考えなんですけれども、今、Uターンの現象が起こりつつあって、世界的に。</p> <p>皆さんも御存知のように、オーストラリアではSNSの年齢制限がもうスタートしました。それと北欧、特にスウェーデンでは、コロナの時に配布してたタブレットを全部撤収して、逆に本、教科書をもう一度配って教科書に戻ろうというね。北欧は教育先進国であって、北欧がそういうふうに出てるっていうことは、日本は遅れてるのでどれぐらいかかるかわかりませんが、今後またそういう時代に戻っていくのではないかと思いますのでね。</p> <p>ですから、引き続き広報活動、それからC委員が先ほどおっしゃられたように、非常にその魅力がターゲットに対して、その内容の魅力がしっかりと伝わるようなね、チラシ、フライヤーっていうんですけど、ポスターをできるだけ頑張って作っていただいて、産休に入られて厳しいようなんですけれども、産休でもできるかなみたいな。お願いしやすい方だったらお願いしたい。前はそういったチラシがね、今日はないんですけども、チラシがバーって山のようにあって、その中に非常に素晴らしい出来のチラシと、まあまあいいチラシとあって、それを生かしてみたことがあったんですけど、その時に教えていただいて、本当に印象に残ってますので、そういう工夫は続けていっていただけたらいいと思います。</p>
司会 議長	<p>多分作るものも楽しんで作ってると思います。本当に。</p> <p>誰でもできることではないですし、やりたい人がたくさんいても頼まれるっていうことも人も少ないので、頼まれてやってらっしゃる方も、多分それを誇りに感じてやってらっしゃる部分があると思うので、あんまりそのお金をもうそれで儲けようとか、そういうのではなくて、やってくださってるっていうふうに考えるといいのではないかと思います。他に御意見、御質問はございませんか。</p>
E委員	<p>最後なんですけど、夏休み、子どもたちがいろいろ作品を作るのが人気があるっておっしゃられてたと思うんですけど、その作品の</p>

事務局（西）	展示みたいなのは、その後図書館ではしないのでしょうか。
司会	そのままお持ち帰りいただいています。
E委員	その子らが持って帰りたい。
司会	クラゲふうなんかあってどんなのだったのかなとか。
E委員	僕らがモデルで作ったやつは結構いろいろ。
事務局（西）	多分それを展示すると、他の子たちも、「あ、こういうのを作るんだ」とかで、次の宣伝になるのかなとかは思いました。
司会	リピーターの子が多いので、同じネタを毎年やるわけにはいかないっていうつらいところがあります。結構割と好きなものを作られた時は、学校の夏休みの宿題を持って行ったりしてる子もいて……
事務局（中央）	その需要もありますね。
E委員	一応見本を先に置いてあって、こういうのをしますっていう告知を先にしてあって、結構子どもの部屋にこういうのを今度やります、何日からしますっていうのを置いているの一応高いところに始まるまでに見本があって、それをイメージして選んでくる。出来上がったものは持って帰るし、余ったらキットをそこに置いて、余ったけど作りたかった、作っていいよっていうのを少し……
司会	入口か何かにこうぶら下がってたら、「すごいこんなの作るんだ」になんなくないですか。
E委員	できるものは実物展示して集めてはいるっていう感じは考えていただいた通りでやってます。
議長	ありがとうございます。
司会	飾ってもらえたら子どもたちもね。
議長	その後のやつは、やったことない。
事務局（西）	これ僕のってね、自慢ができたりして。
事務局（中央）	夏休みに童話を書くイベント、中央図書館さんがされてた。それは発表会があったり……
司会	うちでやるのではなくボランティアの人がされてるんですよ。
E委員	一回聞いてみて、置いていてもいいって聞いて持って帰るっていう子が多い。
司会	それをするのは、夏休みの前の方に持ってきて、夏休み中飾って、学校に提出するならもう一回図書館に来る。
事務局（中央）	多分ボロボロになっちゃう。触ってなんぼみたいな世界。でもなんかその発想がなかったの。
議長	飾ってみたいって思う子がいるかもしれないですよ。
事務局（中央）	そうですね。後で飾るっていう発想が本当なかった。
事務局（中央）	はい、大丈夫です。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。特にもないようでしたら、次に議事の2、令和8年度事業計画について事務局より御説明をお願いいたします。
事務局（中央）	お手元の資料ナンバー1の令和8年度事業についてというものを

事務局（西）	<p>御覧ください。令和8年度の中央図書館管理運営事業の当初予算は、8,971万5,000円となっております。令和7年度の当初予算は8,935万9,000円でしたので、前年比の25万6,000円と微増しております。</p> <p>これは令和8年度に更新する業務委託における人件費の上昇分が主な要因となっております。それでも一部の業務委託は包括管理事業委託に吸収されるなど、減額要因もあって、わずかな増減にとどまっております。上の列から大まかな説明をいたしますと、報酬費は外部の講師等を招いてイベントの報酬です。</p> <p>イベントの内容にもよりますが、1回1人当たり5,000円から2万円を支払っております。消耗品754万8,000円のうち、閲覧用雑誌が115万円で、閲覧用新聞代が69万円、その他消耗品図書が60万円となっております。</p> <p>消耗品図書は年度版の旅行ガイドなどです。図書データの購入費が213万4,000円です。TRCマークは図書館も含めた宝塚の図書館全体の経費を中央図書館管理運営事業の方で見いております。</p> <p>光熱水費は前年と同額ですが、国の補助金や世界情勢等に左右され、先行きは不安です。</p> <p>備品購入費は図書館の根幹である図書購入費で、全額、失礼いたしました。昨年度と同額の1,800万円です。</p> <p>下の表なんですけど、令和7年度図書館管理運営事業建物保全となっておりますが、正しくは令和8年度でございます。</p> <p>お手数ですが訂正してください。申し訳ございません。下の表の説明に入らせていただきます。図書館管理運営事業建物保全予算は3,065万9,000円、令和7年度は9,468万円でしたので6,432万1,000円の減となります。これは令和7年度に非常に大きな工事である空調空調機器更新工事の支払いがあったためです。</p> <p>それでも令和8年度は中央監視装置更新工事で2,497万6,000円、防水改修工事設計委託で418万4,400円など大きな案件が続いております。</p> <p>防水改修工事の施行は令和8年度以降となる予定でございます。</p> <p>以上、令和8年度の中央図書館運営事業の報告を終わらせていただきます。</p> <p>続きまして、西図書館の令和8年度予算ですね、当初歳出についての御説明をさせていただきます。資料につきましては、中央図書館の資料の裏面になります。</p> <p>まず、西図書館の管理運営事業といたしまして、3,736万6,000円、前年度が3,774万1,000円、比較いたしますと37万5,000円、約1.0%の減となります。</p> <p>内訳といたしまして、まず7報償費ですけれども、子どもの読書活</p>
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

動推進計画関連の事業及びストーリーテリングボランティア養成講座の講師等謝礼といたしまして39万円、手話通訳要約筆記の謝礼といたしまして3万円の計42万円で、前年度とこれは同額となっております。

次に、8旅費ですけれども、費用弁償と普通旅費を合わせて4万2,000円、前年度が10万4,000円、比較しますと6万2,000円、59.6%の減となっておりますけれども、これは前年度は職員を東京で開催される研修に参加させるための普通旅費を計上していたためです。

次に、10需要費ですけれども、1,095万8,000円、前年度が1,061万3,000円、比較いたしますと34万5,000円、3.3%の増で、そのうち雑誌や新聞その他の事業や図書館運営に必要な消耗品などを購入するための消耗品費が438万1,000円、前年度が400万4,000円、比較いたしますと37万7,000円、9.4%の増となっています。

次に、電気料金、ガス料金、水道料金および下水道使用料を合わせた光熱水費が550万3,000円、前年度が524万1,000円、比較いたしますと26万2,000円、5%の増となっています。

次に、郵便料や電信電話料などの11役務費ですが、70万8,000円、前年度が70万2,000円、比較いたしますと6,000円、0.9%の増となっています。

次に、13使用料および賃借料ですが、1,220万1,000円、前年度が1,230万2,000円、比較いたしまして10万1,000円、0.8%の減。そのうち西図書館共益費が1,091万円、前年度が1,099万3,000円、比較いたしますと8万3,000円、0.8%の減となっています。

西図書館は御存知のように西公民館との複合施設になっておりまして、施設の管理につきましては西公民館と一体的に行っております。その西公民館は指定管理者制度を導入しておりまして、指定管理者であるアクティオ株式会社が施設管理を一括して行っております。共益費はその経費を市からアクティオ株式会社に支払うものでして、この中には建物総合管理業務、清掃業務、冷暖房空調機器保守点検業務、エレベーター保守点検業務等が含まれております。

また、西図書館では令和3年度に全館LED照明工事を実施しておりまして、LED照明器具借上料が66万円、前年度と同額となっております。

次に、17備品購入費ですが、1,300万円、前年度が1,356万3,000円、比較しますと56万3,000円、4.2%の減で、今回につきましては全て図書を購入するためのものとなっております。前年度に計上しておりました木製の書架を購入するための斥用

	<p>器具費を本予算では計上していないということになっております。</p> <p>次に、18負担金補助及び交付金ですが、3万7,000円、日本図書館協会会費で前年度と同額です。</p> <p>その下の表になりますけれども、西図書館管理運営事業建物保全ですけれども、14工事請負費において老朽化が著しいエレベーターの更新工事費として3,011万円を計上しています。</p> <p>令和8年度予算についての説明は以上です。なお、本予算を含みます令和8年度宝塚市一般会計予算は、付託されておりました予算特別委員会において、昨日原案のとおり可決されております。来週26日に開かれます市議会定例会の本会議において議決される予定になっております。本会議で議決され可決になりますと、予算が成立するということになります。</p> <p>また、今後寄附等がありましたら、補正予算等で対応してまいります。以上です。</p>
議長	はい、ありがとうございました。それではどなたからでも結構ですので、御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。
A委員	はい、7番の報償費か、ライブラリィですか。他はみんな下ライブラリィ……
司会	これは伸ばすじゃないかな。
A委員	あと役務のところですね、保険料って入ってるんやけどもね、西の方はこうした保険料はないのかな。
司会	これ特別なやつです。
事務局（中央）	この保険料はですね、1年に1回です。鉄斎美術館と聖光文庫の共催で企画展というのを聖光文庫でやっています、その時だけほぼ全部近い形で鉄斎美術館からの美術品を展示しますので、それに対するの保険金額になっております。
A委員	美術品の評価額で決まってくるので、大体これぐらいが上限かなという形でとっております。
事務局（西）	17番のところ、中央の方は備品購入費、図書費、西図書館の図書、読み間違いですか。何か違いがあるんですか。
司会	予算説明書に書いてあるとおり。
A委員	ないですけど。
司会	18番の日図協（日本図書館協会）の負担金って書いてあって、西の方は協会会費。他にも中央の方があるのかもしれないで。
事務局（西）	これはいろんな阪神図書館協議会だったり、兵庫県図書館協議会だったり、そういうのが。
C委員	日図協の方は図書館ごとに入らなければならないけど、あとは中央が全部入っています。
	ちょっとわからないんですけど、17番かな。17番とどちらも17番ですね。備品、備品購入費の図書館の一番メインになる図書購入

	<p>費なんですけれども、これは大体予算、総予算の何%ぐらいが適切というふうに考えてられるんですか？</p>
司会	<p>予算全体の何%というふうなことですか。</p>
C委員	<p>例えば8,971万円予算をいただきます。その中でメインになる図書の購入費、これがどのぐらいの数値、私にはわからないんですけども。</p>
A委員	<p>難しいと思います。場所にもよるでしょうからね。単独で持つてるものとか、そうなってきたら全然話が変わってきますからね。</p>
C委員	<p>年間これぐらいの今出版される本の中で、図書館として購入しなきゃいかんのは、これぐらいの割合は取っていきたくてかいうのは。</p>
司会	<p>感覚、数字でって難しいですけど、感覚としまして、今日本で1年間に出版される種類、本の種類というか、タイトル数というかは、本の実際の冊数じゃなくて種類ですね。タイトル数で、よっぽど特殊なやつを除いたら、7万か8万タイトルぐらいなんです、大体。</p> <p>それでうちの図書館としてこの金額とかで、同じ本を何冊も図書館としては買うことも、もちろん絵本とかだったらあるんですけど、そういうのもあるんですけど、この中央図書館だったら1,800万円で、本だったら1万、1万なんぼか買えるぐらいなんです。</p> <p>本の冊数で平均で1,000なんぼ、1,700、800円ぐらいなので、それでその1万というぐらいの種類の本を買ってるので、それその1万という数字は7万のうち1万だけど、本屋さんでよく目にする本は結構あるねぐらいの印象はあると思うんです。</p> <p>そのぐらいの金額を買えるぐらいの額なんだろうと思ってます。もちろん多ければ多いほどバラエティに富んだいろんな本が買えるんですけど、むちゃくちゃ少ないわけではないです。この1,800万で、西図書館も1,300万円も中央とは違って少ないですけど、中央図書館は移動図書館とか分室の方も含まれてますので。まあ、西図書館もそんな感じ。</p>
事務局（西）	<p>西図書館は、決算の時にも報告させていただいたんですけど、大体9,000冊ぐらいです。それで、1,300万円。</p>
司会	<p>すごくお金がなくてむちゃくちゃ買えないよって感じでもないような感じなんですけど、その点は予算をそこまではつけてはいただいちゃってらるけど、もうちょっと増やしてくれたら嬉しいような感じではあるようなところかなとは思いますが。</p>
事務局（西）	<p>現時点でここ数年同じ予算額をいただいでるんですけども、本の単価が例えば900円やったものが1,100円、1,000円やったものが1,350円ぐらいの。</p>
司会	<p>すごく上がる。</p>
事務局（西）	<p>今は納入してくださってる業者さんの掛け率とかいろいろ考えて、だいぶなんとか買えてるっていう状況ではありますけど、これがさ</p>

C委員	<p>らにもっと上がってくると、この予算ではっていう話にもなってくるんですけど、その時はまた御相談かなと。</p> <p>今見ましたらね、中央図書館の方は大体総予算の20%ぐらいですよ。西さんの方が37%ぐらい、西さんの方が予算に対して購入図書の高割合が高くなってるんですよ。だからその辺のウエイトバランスがどんなのかは私わかりませんけれども。</p> <p>もう一つね、聞きたいのは、主に図書を買っておられると思うんですけども、視聴覚ライブラリー、音声とか映像とか含めた、そういった、そちら側の視聴覚的なライブラリーを何%ぐらいそこから購入しようとはされてるのか、教えていただきたいんですけど。</p>
事務局（中央）	<p>実際には視聴覚は買ってないですね。</p>
C委員	<p>買ってない。</p>
事務局（西）	<p>消耗品費の方から、今年度につきましては、DVDを少し買い足しました。</p>
事務局（中央）	<p>中央図書館はゼロで買ってないです。</p>
事務局（西）	<p>だからDVDを少し買い足しました。CDに関してはもう買ってないです。寄贈、たくさんクラシックのものとか頂いたっていうものもあるんですけど、今のところ購入する予定はありません。</p>
事務局（中央）	<p>たくさんあるCDはほとんど寄贈でいただいたものに、あれだけのものを個人の方が寄贈で、クラシックとか、そうなんです。すごく全部。</p>
C委員	<p>2階に視聴覚室みたいなのがあります。中央図書館ね。</p>
事務局（中央）	<p>中央図書館、あそこの方はCDは置いてないから、あそこはDVDとかは確かに買ってたんですけど、最近では買ってなくて、今貸出しをしないで見るだけのものなので、DVDは。なのでタイトルをそんなにたくさん買ってなくて。</p>
C委員	<p>個人的な希望ですけどもね。兵庫県下、特に宝塚もそうでしたけれども、阪神淡路大震災がありましたね。そういった関係の映像、あるいは映像作品、そういったのはマメに収集しておいてほしいなど。</p>
A委員	<p>いや、それは図書館にはね、酷だと思いますよ。もう今日僕最後に聞こうと思ったんやけどね。いわゆる前に私は堺に住んでるんですけど、美原図書館に行って、美原図書館で久しぶりやな言うて話したらね、「VHSのビデオを廃棄しようと思ってんやけど、どこか知ってるか」言うから、そんなもんもうとっくにみんなで廃棄してるぞという話なんですよ。</p> <p>もう特に映像関係の資料ね。もうはっきり言って図書館ね、持ち重りしてるんですよ。持っているのはね。VHSのビデオなんかやったらね、著作権もついてごつい高かってね、ほるにほられへん。廃棄、もう再生する機器があかんようになってるのがね。</p> <p>今図書館は本の話は出ましたけどもね、どっちかという電子化</p>

C 委員	<p>に行ってるわけですよ。ほんでそんなデジタル資料ばかり増えてきてね、それもどうしようかの話になってるわけですよ。</p> <p>でね、視聴覚資料をね、まあ阪神淡路の部分ね、いわゆるなんていうか、あるからね、研究所というか、防災の施設とかあるからね、そっちに任すのが一番ええと思いますよ。図書館でそんな手出ししたりしたらね、えらいことですわ。</p> <p>人と未来の防災センターありますね。ありますが、一切そういう作品置いてません。置いてないんですよ。だからどこかがね、どこかがしっかりそういう記録の作品にしても、映像作品にしても、どこかが持ってないといけないんですよ。</p> <p>ところが、人と未来の防災センター行っても何も無い。ほとんどないんですよ。だからいわゆる記録映像とか、教育用の地震のあれとかはあるけれども、作品として出ているいろんな映像作品というのも一切置いてない。それはもう寂しい限りで、兵庫県に言いたいと思うんですよ、これは。</p>
A 委員	<p>今ネットのね、そんな文化でね、アーカイブとかでもどんどんね、持ってるところが減ってきてるわけですよ。それ国会（図書館）に集約したりとか、もうどんどん進んでいってるわけですよ。</p> <p>言い方悪いけどもね、宝塚市の図書館単独でっていうかね、よっぽどでなかったら、それでやっていくのしんどいと思いますわ。地元の方がやるのは仕方ない。</p>
C 委員	<p>どうなんですかね。例えば兵庫県立図書館の方に、じゃあそれが全部揃えられているかというのと、これは連携でどういう作品とか置いてるかとかいうのは聞き取ることができますよね。</p>
事務局（中央）	<p>そもそもそんな存在がありましたかね。ビデオとかDVD、あの時のね、震災の記録映像ですよ。それ自体があるのかな。</p>
司会	<p>放送局、放送局とか。</p>
C 委員	<p>放送局とか、ただ映像としての、作品です。映像作品、映像作品としての。</p>
F 委員	<p>個人が撮ったのじゃなくてですかね。</p>
C 委員	<p>ただの記録じゃなくて、映像、まあ言ったら文学作品と同じですよ。ね。</p>
議長	<p>映画とかそういうことですよ。</p>
C 委員	<p>そういうことですね。いくつか持ってられるんですよ。</p>
A 委員	<p>結局はどこかがね、集約せなあかんのやと思います。どこかにお願いするんやったら、図書館はもちろんお願いしたらいいと思うんやけどもね。ここの図書館でそれをね、集約していくっていうのはね、小さな範囲でできたとしてもね、なかなかしんどいと思います。</p> <p>ものを持ってるということはね、その再生っていうかね、見ることを保証せなあかんからね。機器がもうどんどんね、新しいの出てきて</p>

C委員	<p>ね、もうそんな再生できるような機械がね、発売もされないんかったらね、持ってるだけというふうになるからね。</p> <p>人と未来のそこもね、VHSというかな、ビデオテープ型のやつと、それからDVD型のやつと、機器は2つをセットで、2つ持ってはりましたね。だからビデオテープのやつとDVDね、持ってはるんですけども、なんせ資料的には映像資料非常に貧弱です。</p>
A委員	<p>VHSなんかやったらね、今やったらDVDに変換せなあかんですよね。それ図書館でもまあ買うたようなVHSなんかやったらね、著作権ついてるからね、それ勝手にできへんのですよ。</p>
C委員	<p>だからその機械が結構大事に使ってはりました。見てあれしてもらった。</p>
A委員	<p>最後に聞こうと思って、さっき言ったんやけどね、美原かてね、VHS持ってんですよ。買うたやつ持ってんねんけどね。それ時々検索してね、間違えてその取り寄せやってね、これすぐに返ってくるんやと。</p> <p>再生する機器ないんやと。コピーもできへんのやと。どんどん見られへんなっていくと、どうしようもないなという話です。</p>
司会	<p>なかなか映像の扱い、今図書館難しいところです。本当に。</p>
C委員	<p>なぜそういうこと言うかということ、例えば宝塚市の防災関係危機管理室とか、そういったところに資料を貸してくれというふうに行くでしょ、持ってないんですよ、まず、全然。</p> <p>例えば震災関係のパネル写真、パネル写真一つでも揃わない。だから学校で例えば「防災教育をしましょう」と、「パネル写真貸してください」と言われた時も、すっと出せないんですよ。でも、そういう映像とか、そういったものがないと防災教育なんかできないんですよ。</p> <p>こういう意味では、防災関係の視聴覚機器、機材、機材というかコンテンツ、そういったものは何かあって、それは図書館の経営運営方針がそれぞれ個性豊かにあるわけですから、それでいいと思うんですけども。</p> <p>どこかがきちんとそろえておかないと、その学習啓発おぼつかないなと。私、わざわざあの人と未来の防災センター行ってがっかりした。全くない。</p>
A委員	<p>郷土資料のところね、検討してもらうか何かですね。</p>
C委員	<p>だからこれも市としてほんまは考えないかんことやと。宝塚市もたくさん亡くなってますしね。だからそれぞれがそれぞれの地域で、その防災啓発活動とかやろうとした時に提供する資料がないっていうのはね、おかしいところでね。</p>
A委員	<p>静止画やったらまあ無理やり今の宝塚市のね、デジタルライブラリーでも放り込むことはできるかもしれんけど、動画になってきた</p>

C委員	<p>らこれ何とも言えん。</p> <p>ちょっと高いですけどね。DVDなんかでも出た時は1万5,000円とかそれぐらいしますからね。でも年に1作か2作ぐらいしか出ないから、そういうのはちょっとずつ買い足していって揃えてもらったらありがたいなと思います。</p>
事務局（西）	<p>どちらにしる館外への貸出しは多分できないので、著作権の関係で貸出しできるようにしようと思ったら、3、4倍高い価格を上乗せしないといけないし、それを交渉しないといけないところもあるので。</p>
事務局（中央）	<p>図書館がもし持っても、その教育のために学校に貸すとかができないんです。その現状、学校はできると思う。学校で持っているものは多分ね、教材とする。結構著作権が緩かったりもするんですけど、うちは多分特別できなくて、持ってて見に来るのはできるけどみたいなことになってしまうので。</p>
C委員	<p>ですよ。だからこれ社会教育の部分と絡んでくると思うんだけどね。社会教育というか、生涯学習というか、その辺のところと絡んでくると思うんだけど、問題意識として一般市民サイドから見ると、そういったものが全く公の場の方でないというのが寂しいというね。</p>
議長	<p>ありがとうございます。図書館の役割がね、どの程度の範囲のものかかっていうのもありますし、ただ、おっしゃるように、一つの自治体としての宝塚市が、やはりある程度のそういったものを持っておく必要はあるのかなとか思いますので、また図書館以外のところでそういうものを所有する余裕がありましたら、そういうふうにしていただきたいなと思いますけれども、この場ではなかなか正解が出ないような。</p> <p>でも皆さんでね、考える一つのきっかけになったと思いますので、貴重な御意見をありがとうございました。</p> <p>他はいかがでしょうか。A委員、さっき最後に言おうかと思ってたんですけど。</p>
A委員	<p>いわゆるVHSとかあるんですか。</p>
司会	<p>ないと言ったらあるけど、再生することは。</p>
事務局（中央）	<p>再生機があるんですけど、1台だけ。</p>
事務局（中央）	<p>本当に修理とか、本当に対応がどこまでできるかっていうのがすごく難題ですね。</p>
A委員	<p>ずっと持っててもね、結局再生の機器があかんようになったら……</p>
事務局（中央）	<p>そうです。そこなのですが。</p>
A委員	<p>ほんでまあ置いとかなあかんもんは置いとかなあかんかもしれんけどね。もういわゆる内外で出てるようなもの、文学作品やとかそんなね。それが映画化されてるようなもんやったらね、もういいんちゃ</p>

	<p>うかなっていうふうに思うんですよ。</p> <p>言うたらあれやけどね、若い世代やなしに年寄り、卒業間近の年寄りとか卒業した人が来てたらね、その人らがやらないあかんことですわ。フレッシュな新人さんにね、そんな作業をさせるのはあかんなと思って。</p> <p>それ聞かれたのもね、分館に行って、美原（図書館）でそんな相談受けたら、もういっぺん卒業して、まだ非常勤で行ってるような人に相談受けても「僕らがやらんとどうしようもないねん」と。事務的にというか、その情報ってというか、その載ってるような画像の中身、その代替手段は確保する。これ見たらいけますわとかね。</p> <p>それはその情報を押さえなあかんと思うねんけど、安易に廃棄するだけじゃなしに、それはせなあかんと思うけれども、ものとして自分ところで責任、再生もできへんようなものを持つてるのも、それはゴミです。</p> <p>廃棄ってというか。</p> <p>西図書館はもともとないのですが、中央図書館視聴覚室に1, 100タイトルがありますので、置く場所があるから、今はそこに置いているというところではあります。</p>
司会 事務局（中央）	
A委員	それは宝塚市はでけへんかったとしても、それは役割としてね、兵庫県立図書館がね、役割やからね。それ押し付けていかなあかんですよ。
議長 司会	<p>どうですか。</p> <p>映像っていうのが安いサブスクとかでどんどん見れるようになってるっていう世の中の変化があって、その中でほんまにその提供をずっと続けていくんかみたいな、大きな問題もあるな。問題というか、考え方も環境も考えなあかんなと思います。</p>
A委員	それと、デジタル化はされてるんですけどね。いわゆる電子書籍の提供どうのこうのは何か考えられておられるんですか。
司会	<p>業者さんと常に会って、お金の話もしたりとかしてるんですけど、あとそれと同時に他の図書館も、入れられてる図書館も多いわけですけど、そこの入れられた図書館のその利用の感じをどういうことなかなっていうのを常に知り合いだと聞くことにしてるんですけど、そのコンテンツというか、中身がその売れるものやったら、出版社はそんな出さないという中で、本当にすごく活用されてますよっていうところが少ないので、子どものやつは別の役割があって、学校での利用とかも調べ学習の可能性があるので、そっちの方はもしかしたらいいかなとは思いますが、今のところその投資したのに見合うほどのほんまにあるんかっていうところで、今止まっているところですよ。</p>
議長	よろしいですか。他に特にないようでしたら事務局から今後のお

<p>司会</p>	<p>知らせ等ありましたらお願いします。</p> <p>先ほどの中央図書館の8年度の事業計画であったんですけども、この表の下から2、4、5番目や6番目、5番目ですね、防水改修外工事設計委託料っていうので418万円となっておりますけれども、この工事は、これ自体は設計委託ということで、まだどういふのを作るかっていふのを設計してもらふ金額なんです。</p> <p>とても大きな工事なんです。まあ簡単、優しく言えば雨漏りを直すっていう工事なのですが、もうすごい何億とかかかるかもしれない工事をそれで設計を今してもらふんですけど、この建物が今46年目で、どんな建物も大きい建物は雨漏り、聞けばどこでも結構してるんですけど、そういう時期が来てまして、その時期が実際の工事はまだ全然見えないし、これ公にできないし、わからないことなんですけど、この2年後か3年後かぐらいから工事が始まってっていう形なんですけど、その工事、大規模な工事になるので、この建物が使えなくなるというような工事になるかもしれないんですが、その時も先ほど分室のこともあったんですけど、できるだけサービスが滞らないということを考えるということこれから僕らは今までやってるんですけど、可能性あることをいろんなところで別のサービス、この場所からあまり遠ざからないでサービスできないかというのを考えてやっていくみたいな、そういう課題があるんですけどいふのをこの場ではお伝えしておくかなと今思っております。</p> <p>それが一つと、その山本南分室、本当にこの図書館協議会の方々の提案というかによって実現することができました。本当にありがとうございます。あそこも実は公民館さんは公民館の事業をやりたいので図書館とぶつかって、でもなんとか許してもらっていふ範囲を調整しながらなんとかあったということではあるんですけど、本来ならあその場所っていうよりは、違う場所にもうちょっと規模のある図書館ができていい場所ではあるのは間違いないと思います。</p> <p>今回、ひらい人権文化センターに移って、非常にやりにくい、人が来にくい場所なのに、2階の階段上がって奥まったところっていうところなのに、利用が山本南分室の50%から60%も予約の貸出しだけでほぼ近いのにあったってことはすごい需要があるっていうのを感じたことではあります。</p> <p>山本南分室が予約利用がはっきりわかってなかったんですけど、すごい予約利用が多いことも明らかになったと思います。なので、すごく需要がある場所であるということは本当にあるので、長期的にはもうちょっとうまいこといけたらなと思ったりしております。</p> <p>デジタル化とかいろいろあるんですけど、本に読みたいっていうこと自体が求めている人はいっぱいおることには違いないとほんま</p>
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>議長 司会 議長 司会</p>	<p>思うてますし、子どもたちにとっても、何て言うか、本から離れていくみたいな報道が多いですけど、そんなんじゃないないなと思うことを信じて僕らは仕事してきたんだと思っております。</p> <p>ビブリオバトルの時もすごかったですね。何十冊って読んでる。そう、子がいたりね。</p> <p>格差を感じますね。</p> <p>そうなんです。二極化というのがすごくありまして。そうなんです。子どもたちが、子ども本というのもどんどん出来上がってると思うんです。</p> <p>いろいろ見た目もそうですけど、中身は世代が違ってもうわからない。世界の本も多いんですけど、そういうのが好きな子どもたちもいっぱい見てきてきてるし、もちろん古典みたいなのが好きなという子どもたちも中にはいるし。</p> <p>なので、図書館だけではどうしようもないので、学校とかいろんなところに子どもと接するところに力って言うか、思っていることを伝えて広めていきたいなと思ってますので、D委員よろしくお願いします。というか、本当に。</p>
<p>議長 司会</p>	<p>年度末ですけど、来年度はどうなるか。この会議でも。</p> <p>委員さんは、変わらない。変わらないです。全員変わらないです。PTAさん。</p>
<p>事務局（中央） 事務局（中央）</p>	<p>変わります。</p> <p>変わります。4月の人事異動とか、なんかPTA協議会さんで1年ごとに役割を変えているところは交代、今の2年間の任期はいつまでですか。</p> <p>今の委員さんの任期は6月30日まで。2年間皆さん任期がございまして、その最後の6月30日までは全員そのままで、先ほど申し上げたように、4月の人事異動で影響のある方は、その方にその都度交代していただくことになります。</p>
<p>司会 D委員 司会</p>	<p>学校はその可能性はあるっていうことですか。</p> <p>そうですね。はい。</p> <p>私事ですけど、私はもう来年度は館長ではないということになっております。定年というか、まだ図書館に居させてもらうんですけど。すいません。役職定年という形になりまして。</p> <p>何か今北委員が配ってくれてるんですけど、結構ね、学校でもいろいろ本の紹介ね、推認していただいているっていうのがこの本とかわかります。何かこのこれは誰が作ってるなんですかって言ったら、このやつは実はボランティアさんとかやっています。そういうことがあるみたいです。その校長先生も毎回校長先生になるとこんな表変えたいとかあるんですよ。</p>
<p>D委員</p>	<p>うちも学校司書さんが図書だよりを作ってくださっています。</p>

司会	<p>僕ら図書館、図書館で言ってるけど、いろんなところで本を紹介してくれてるし、いろんなところでやってくれてるなって本当に感じます。</p> <p>はい、御協力を皆さんにさせていただいてます。すいません。ありがとうございました。</p>
議長	<p>よろしいですね、はい。それでは本日の図書館協議会をこれにて終了させていただきたいと思います。皆さんも年度末のお忙しい中、本当にありがとうございました。</p> <p>来年度もまたよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>